

## 仲間と過ごす時間の大切さ

報告者 中野千寿佐 村上鈴美

### はじめに

療育班ではいろいろな経験により五感を育てる活動以外に、自然に仲間との関わりができるような活動を意識的に提供してきました。そんな活動を、ここでは次の 2 例を取りあげ「仲間と過ごす時間」は具体的にどのような意味があるのかを考察したいと思います。

### “手に物を持たなくてもよくなったHさん”のケースを通して

Hさんは現在 42 歳の女性です。発達年齢は 2 歳 1 ヶ月で、1 歳の頃、三種混合生ワクチンの後遺症によって小児麻痺になる。当初の課題として、言語理解の困難さと注意/注視の欠如が大きく影響して、新しい状況を受け入れることがむずかしく、すぐに情緒が不安定になってしまう点のある方でした。

#### Hさんのプロフィール

1963 年生まれ  
1969 年～1981 年 S 養護学校  
1981 年～2001 年 M 授産施設  
2001 年～ステップ広場ガルへ入所

これから療育活動に参加するようになったHさんが人との関わりを通して、どのような変化をたどってきたのかを見ていきたいと思います。

家族から離れて……………2000 年 1 月～2000 年 8 月  
1999 年の 11 月頃からガルの短期入所利用を始め、日中の時間は 2000 年 1 月から療育班で活動をしている。笑顔であいさつしたり、話しかけると笑ったりしているけど、それ以外の時は表情が暗く、紙を細長くちぎっては、よだれをのりの代わりにして紙の端につけて輪つなぎを作っている。午前・午後ともに活動が終わる 30 分ぐらい前になると、手を引っ掻く自傷をしながら「すいた」「終わり」と言ってきて、食堂へ行ったり棟へもどったりしてしまうときもある。

不安を小さくするために……………2000 年 8 月～2001 年 10 月  
仮説 「すいた」「終わり」の言葉は、時間を持って余しているから出てくるのでは  
目標 安定した状態で、最後まで活動できるように  
午前・午後の活動が終わる時間帯に、職員といっしょに役立つ活動(掃除をする・ゴミを捨てる・洗濯物をカートへ入れる)を取り組むことで、最後まで療育活動に参加できるようになる。でも、職員の近くにいることが多くなり、職員がバタバタと動いてしまうと、紙を探して細長くちぎり始めている。

役割による充実感……………2001年11月～2002年3月

目標 役割をもつ楽しさ・うれしさに気づく

短期入所利用からガルへの入所になり、日中の時間帯は療育班に所属することになる。「すいた」「終わり」というイライラした言葉はなくなり、役割(車椅子を持ってくる・ゴミを捨てる・洗濯物をカートへ入れる)を職員といっしょに取り組んでいるうちに、“自分からする”という動きがみられるようになる。職員に誉めてもらうとうれしそうにしている。でも、職員の後ばかり追いかけ、活動がなくなってしまうと、紙を細長くちぎっては輪つなぎを作ることがみられる。また、のりを持ち歩き、のりがなくなると「こうて」と自傷しながら伝えてくる。

主役の場面を……………2002年4月～2003年2月

仮説 もっと自信を持たせることで、職員の後追いが減っていくのでは

目標 仲間を意識して自分のできることへの達成感を味わったり、仲間に喜ばれているといううれしさに気づいたりする

ラジオ体操の始まりの声かけ役をしたり、療育活動の終わりの声かけ役をしたり、仲間の前で簡単な言葉を話すことに取り組む。「お姉ちゃん」的気分を育てることにより、仲間へ積極的に声をかけていくようになる。また、のりを気にすることもなくなり、職員の後を追いかけることが減ってくる。でも、7月頃から紙をちぎっては丸めることが始まり、職員の退職により、紙を丸めることが多くなる。携帯電話をもらってからは、ずっと携帯電話をもち、音楽をならしている。携帯電話の電池がなくなり、音楽が聴けなくなると自傷しながら、携帯電話を職員のところまで持ってくる。

仲間の存在の大きさ……………2003年3月～

仮説 心のよりどころがない不安が、手に物をもたせるのでは

目標 仲間と楽しんでいろいろな活動ができるように

散歩のペアA(Aさんについては、第1回実践報告会資料を参照)さんと、リズム体操でもいっしょに体を動かしてもらったり、移動のときには声かけをしてもらったりして、一方的な働きかけにならないように職員が丁寧に見守りながら、二人の関わる時間を多くつくる。「あー、もう」と言いながらAさんと関わっているが、散歩後の時間は外の景色を見て過ごしたり、Aさんの隣に座ってウトウトしたりして、今まで気にしていた漠然とした時間が気にならなくなる。

< Hさんの変化 >

- \* 気持ちの切り替えが苦手で、自分の中で「つもり」を作ってしまうとその行動までずっと表情が曇ってしまうけど、Aさんとの活動を提供することで、気持ちの切り替えができる。
- \* 新規場面への抵抗が強く落ち着いて取り組むことができない活動を、Aさんといっしょに取り組むことで不安が小さくなり、スムーズに取り組むことができる。
- \* リズム体操で、“舟こぎ”(座って、両手をお互いに持ち合って、前後に体を動かす)をする時、お互い協力しあって体制を整えている。

次の動きへなかなか気持ちが切り替わらないHさんに対して、体操の順番を覚えているAさんが手を引っ張って次の動きに変わることを伝え、それに気づいたHさんがゆっくり姿勢を変更するAさんの手足も動かし、相互補助により“舟こぎ”の体操に取り組むことができる。

- \* 表情が暗くても男性職員の姿を見ると元気になるくらい男性職員が好きなHさんが、熱のため療育活動をお休みした日、活動後お見舞いに行くと、一番好きな男性職員を連れて行ったときより、Aさんを連れて行ったときの方を喜んでいる。

## 幅 広 い 交 流 の 中 で 変 わ っ て い く 人 た ち

いつもの日中活動は、所属する班を中心に活動参加しています。今回はこの日常を超えた所に生まれる関係の中で、療育班の仲間だけでは実現することが難しかった活動が実現したり、通常の活動を より実りのある活動に変えることができた様子を具体的な事例を通してまとめてみました。

2003年10月29日

プランター栽培の野菜を使って豚汁を作る。

休日の水遣りをしてくれたさくらはうすのXさん、Yさんを誘う。

思えば、この時が、他班の人たちと共にした最初の療育活動であったかと思います。療育班の人たちには、豚汁を作るすべての行程を取り組むことはむずかしくのですが、XさんやYさんが協力することで、職員が作るのではない、ガルの仲間で作る豚汁を実現することができたのです。この日以降、Xさん、Yさん、短期入所のWさん、A棟のZさんを始め たくさんの人が、時々ではありますが療育活動に参加してくれたことは、療育班の仲間にとって、良い刺激になりました。

	療育班の仲間の様子	参加してくれた人の様子
<p>【豚汁作り】</p> <p>1 度目</p> <p>2003年10月29日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から手を使った集中できる作業提供をしたかったHさんに作業提供できる。自分よりも上手にできる人達の刺激も受けて、生き生きと楽しんで料理できる。</li> <li>・車椅子のBくんは、いつもより行ったり来たりの動きや会話が多いためキョロキョロしている。</li> <li>・通常でない場面の苦手なCくんは、あまり落ち着けず途中でドライブに出る。</li> <li>・Aさんは、ずっと大きな声を出し、料理をしている近くに座ってもほとんど見ようとしなない。</li> </ul>	<p>(Xさん・Yさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日朝からはりきっている。</li> <li>・何をしても一生懸命にやってくれて、とても楽しかったと笑顔で感想を言ってくれる。</li> <li>・療育班の仲間との関わりよりも職員との関わりが多く、とても気を使っている。</li> </ul>
<p>3 度目</p> <p>2004年3月18日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜を取ってくるCさんは、人参の皮むきもする。炊いている傍で見ている。</li> <li>・Aさんは野菜を上手にむいて喜ぶ。さつまいもの皮をむく。</li> <li>・繰り返すうちに雰囲気にもなれ、目からの刺激で出来る作業も増える。</li> <li>・Yさんが関わってくれることで、Dさんは対職員では見せない表情(嬉そうだが、その中にDさんなりに気を使っている)を見せる。</li> </ul>	<p>(Xさん・Yさん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療育室の雰囲気にも慣れ、余裕ができ普段あまりかわりがなかった人達に声をかけてくれたり、物の受け渡しをしたりして関わってくれるようになる。</li> <li>・作業をしながら、療育班の仲間に気を配ってくれる。</li> </ul>

	療育班の仲間の様子	参加してくれた人の様子
<p>【USJ 外出】</p> <p>2004年6月17日 さくらはうす・療育班合同で外出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど さくらはうすの人達と一緒に行動する。</li> <li>・初めての体験が多く緊張も見られたが、みんなでアトラクション、乗り物に乗る。</li> <li>・車椅子の人達もほとんど一緒に乗ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育のDさんがさくらはうすの人の肩を持って歩いたり、Aさんの手を引いて歩いてくれたり、車椅子を押してくれたりと、一緒に楽しみながらお手伝いもしてくれる。</li> </ul>
<p>【プール活動】</p> <p>2004年9月1日 (2004年度からプール活動を取り入れる。)</p> <p>2004年12月1日</p> <p>2004年12月8日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、Xさんと一緒に交代でCさんの足を持ってもらい泳ぐ。45分ほどプールの中でほとんど泳ぐ。</li> <li>・AさんはYさんと一緒に歩き、ニコニコと笑っている表情良く水の中を楽しんでいる。</li> <li>・足をバタバタ動かして喜ぶCさんは、Yさんを前にするともっと力強く足を動かす。</li> <li>・プール見学をしているBさん、Zさんに相手をしてもらい喜んでいる。散歩も車椅子を押してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加してくれたどの人も一人で泳いで楽しむことができる人達ですが、一人で泳ぐことはせず、頼まなくても療育班の人達と関わってくれて、手を持って歩かせてくれたりビートパンを持ってくれたりしてくれる。</li> <li>・車椅子を押してくれたZさんは、車椅子から横にダランと落ちたBさんの腕に気付いて車椅子の肘掛に腕を置いてくれる。職員に誉められると嬉しそうにしている。</li> </ul>
<p>【Wさんの参加】</p> <p>2004年秋頃からガ ルにいる間に何度 か療育活動に参加 しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩時、Aさんはよく手を引いてもらう。自分から手をつなぎに行くこともある。</li> <li>・Hさんはライバルとして、仲良しの仲間として刺激をうける。絵を描く場面では、お互いに描いたものを見ながら長時間取り組むことができる。絵も描いているうちに描き方が変化していく。(小さい文字のようなもの 紙全体に描く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会に絵本を見なかった短期入所のWさんでしたが、療育活動に参加することで少し目を向けるようになる。</li> <li>・療育班の人達に対して仲間意識を持つようになり、卓球大会では、ホールの隅にいる療育班のDさんにまで応援用のポンポンを持って来てくれる。</li> <li>・外出先でCさんが発作を起こした時には、座ると靴をすぐに脱ぐAさんに靴をはかせてくれたり、みんなのコップを集めたりする。</li> </ul>

#### < 参加した仲間の様子 >

- \* 仲間の様子を真似て、むずかしい活動をがんばって取り組もうとする。
- \* 周りの様子をよく見るようになり、笑顔の回数が増えている。
- \* どうしたら療育の人に喜んでもらえるのか、関わる方法を考え工夫している。
- \* Hさん・Aさんほど深いつながりではないものの、参加してくれた人達がみんな療育班の仲間に優しく接してくれる。
- \* 職員が活動の準備などをしていると、自ら準備の手伝いをする。

## まとめ

まず、Hさんについては、仲間との関係づくり以外にも、自分の気持ちを表せる（言葉を雰囲気だけでしか理解できないので周りの状況に合わせてしまう）ための取り組み、大好きな花摘みを押し花にして作品として仕上げることで達成感を味わう取り組み、いろいろな経験をして活動を広げることなど、さまざまな角度から働きかけてきました。その援助によって今のHさんの姿があると思っています。でも、Aさんという仲間がいることは、よりいっそうガルでの暮らしを安定した豊かなものにできたと考えています。また、仲間との関係づくりができた経験は、これからHさんが人と関わっていく中での大きな力になっていくと思っています。

次に幅広い交流をもつ活動の中では、参加してくれた人達がとても生き生きしていたことが印象的でした。活動参加したからといって、何か見返りがあった訳ではありませんが、本当に自分が療育班の人達の役に立っていることを喜んでいました。そういった仲間を思う気持ちが、お互いを成長させてくれるのだと思います。ガルの中には、たくさんの仲間を思いやる種がまかれています。その種を見落とさない様、これからも大切に育てて行きたいと思っています。最後に、「仲間と過ごす時間」には、より人を成長させる可能性があると言えるのではないのでしょうか。